

## ごま災害ボランティアネットワーク代表あいさつ

おはようございます。

本日、第十一回の定期総会を開催する運びになりました。多くの会員の皆様にご出席いただきありがとうございます。

あの東日本大震災から八年、熊本地震から三年を迎えました。北海道胆振東部地震の傷はまだまだ手付かずのところが多くあるようです。すでに多くの皆様をご存知の通り、その復興はなかなか厳しいものがあるようです。

震度7の揺れに二度も襲われた熊本地震は、いまだに約四万人の方々が仮設住宅で生活を続けています。

一説には阪神淡路地震あたりから、地球自体が活動期に入ったといわれています。地震のみならず、洪水や大雪をはじめとする異常気象を含めた「わざわざ」が私たちを襲ってきています。つい先日も台湾の花蓮で震度7を記録する地震が起きております。

災害は、自然災害だけではなく人為的な災害もあります。比較的安全な日本に暮らしていても、あまり脅威には感じませんが、スリランカではテロが起きて日本人が犠牲になりました。東京オリンピック、パラリンピックが近くなりの、私たちが今まで想像もできないような災害に備えるために関係機関は訓練を重ねているように聞いています。

私たちは、「これらの災害に対して」「できることを、出来る時に」、できるだけ「の気持ちで本務である災害ボランティアセンターの運営訓練は座間市社会福祉協議会と連携して毎年かさすに二回実施しておりますが、昨年度はこの座間支部の方々と災害時における活動協力の協定が行われて新しいメンバーも仲間に加わってくださいました。そのほか、座間市との協働事業を通じて減災・防災のセミナーや訓練を行ってきましたが、今一つ市民の災害に対する感覚がマヒし始めているように感じてなりません。これが災害の風化ではないかと感じています。

皆さんも毎年1月に行われている「防災カフェ」に参加してみて、災害に備えていますか？と声をかけさせていただきますが多くの市民の方は「大丈夫です」といって足早に去っていくことを経験したと思います。私はこのような方を「大丈夫症候群」と呼ばせていただいています。

本当に「大丈夫なのか？」と質問をしても具体的に備えの話は出てくずく、どこへ避難したらよいのですか？ 何を揃えたらよいのですか？という質問をされてしまいます。

以前、何かの席で遠藤市長が座間市で起きた猟奇事件についておっしゃられておられました。だが、この事件の間接的な課題の一つは「周囲への無関心」・・・これこそが一番怖いことである。近隣、近所への無関心、干渉が原因の一つになったのではないかということをお話されていました。

皆さんにとっては、過去の事件だと思います。実は最近です。犯人は、精神鑑定を終わりその結果、裁判にかける方針が打ち出されたのです。

最近では、殺人事件がない日がないような日常が現れてきました。傍観者でいるわけにはいなくなってきました。

「変なことには関わりたくない」という生活形態がこのような大きな事件が増えてきたのではないのでしょうか？

座間市でも振り込み詐欺の被害者が減りません。私などは、よくまあ手元にそんな大金を持っているなーというやましくなるほどです。これだけ座間市の広報車、警察の広報車が回っても被害にあう人が減らないことは、周囲の方々が地域への関心が薄くなってきたのではないかと思うのです。

このような、顔が見えない、顔を合わせない生活が一般的な状態になることが一番怖いことなのです。災害が起きた時に安否確認すらできなくなってしまうのです。

私たち、さまざまな災害ボランティアネットワークの活動は、「生き残らなければ何も始まらない」といひ言葉を実現するために第一層行政との連携を強め、学校や市民の方々に対して

「危機管理」という意識の必要性を伝えてゆかなければならないと思います。

それは、「防災啓発」に止まらずに、あらゆる層に向けた活動が「知識」だけでなく、生き残るための行動の普及、生き残った後、生きるための「技」について、わかりやすく具体的な啓発に取り組むことだと思います。すなわち、「**逃げる**」「**飲む**」「**食う**」「**そつて**」「**電力の自助**」であります。

災害の中を生き抜き、次の復旧・復興につなげるということは、防災の「知識」だけでは「その場」や「その時」を乗り越えることはできないと考えています。そして、次の時代を担う中学生、高校生には災害に関する基礎的なセンスを身に付けてもらうことが大切だと思っています。子供は遊びの中から、学ぶことが多いのです。大人の視点ではなく子供が関心を持つことを遊びやゲームの中で養って行く必要があります。このことを踏まえて「ナマズの学校」を使った防災授業を広められたらと思います。

私たちが十年間の活動を通じて、座間市への提言は確実に実行に移されています。各避難所には避難所を運営するための委員会が行政・施設長そして近隣住民の有志の力で創られて活動が始まっています。また、避難所の仮設トイレの環境改善工事も計画的に進んでおります。

東日本大震災をはじめ熊本地震の被災地の姿から、私たちは大きな学びをしました。特に、**大人の判断ミスで子どもたちの命を失わせる**ことはあってはならないことです。そして、災害時に弱くなる方々、いわゆる**災害時要配慮者**の中でも、特に、妊産婦、子育て中の保護者、乳幼児、児童をとりこ、障がいをお持ちの方、高齢者などに対する研修や訓練をあわせて、行政の方々に呼び掛けて、二次避難所の対応についての勉強会を行いたいと思います。ぜひこのような事業にぜひ各委員の方々が積極的に加わることを望みます。

この後、二〇一八年度活動報告並びに二〇一九年度の活動計画について皆様にお諮りしてご承認をいただいで新しい年度の活動をスタートさせたいと思います。

私たち一同、今年度も皆様のご協力を賜りながら歩みを進めて行きたいと思っております。

本日は、ご案内の通り 私たち団体が発足して満十年の活動報告会を開催する運びになっております。市長をはじめ普段お世話になっている行政の方々をはじめSLの仲間もたくさん参加していただいております。心からの感謝の気持ちをもって報告会を行いたいと思っております。名物のたい焼きも会場に出る予定です。よろしくお願いをいたしまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。